

第13回 東北みらいDX・i-Construction 連絡調整会議を開催(R5.6.20)

東北地域の建設現場においてDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進により生産性の向上や、魅力ある建設現場を目指すことを目的とし、有識者、発注者及び建設業団体からなる会議を開催（東北地方整備局会議室&WEB会議システム併用）した。

【議事】①規約の変更（会議名称変更、会員追加）②東北地方整備局から情報提供
③意見交換 ④関係機関におけるDX・i-Construction取組み状況 等

※ 東北の真の復興に向け「東北みらいDX・i-Construction 連絡調整会議」と会議名称を変更！



◆出席者

【有識者】 東北大学大学院 高橋教授、皆川准教授
宮城大学 蒔苗教授

【国土交通省】 東北地方整備局

【自治体】 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市
【業界団体】

東北建設業協会連合会、日本建設業連合会東北支部、日本埋立浚渫協会東北支部、日本建設機械施工協会東北支部、建設コンサルツ協会東北支部、東北測量設計協会、東北地質調査業協会、日本建設機械インテック協会東北協議会、日本道路建設業協会東北支部、建設電気技術協会

【議事】①規約の変更について

【会議名称の変更】 → 「東北みらいDX・i-Construction 連絡調整会議」
・「みらい」をキーワードに、東北の真の復興に向け会議名称を変更

【ソフトウェア会員の追加】 → 「一般社団法人OCF東北部会」
・令和5年度 BIM/CIM 原則適用に伴い、建設業に関連する各種ソフトウェアを取扱う団体が会員として参画、連携した取組みは有意義

【議事】②東北地方整備局からの情報提供

1. インフラ分野のDX・i-Construction
2. BIM/CIM 令和5年度原則適用
3. 東北復興DX・i-Construction連絡調整会議の取り組み
インフラDX各賞受賞、i-Constructionセミナー、経営者セミナー
ICTサポーター制度による更なる強化 など
4. 次世代を担う若手技術者（学生等）の人材育成取組み（案）
整備局は「i-Construction体験学習会」の体制を地域体制へ移行

【議事】③意見交換

「担い手の育成・確保（対象を小学生・親・家族等へ拡大）」について

令和4年度の『i-Construction新技術体験学習会』には、中・高・大学生あわせて812名が参加。年代に応じ、MR・VR体験、BIM/CIMモデリング作成体験、遠隔臨場体験、現場見学会等実施した。

令和5年度の取り組みは、『体験学習会』に対象を小学生・親・家族等に拡大整備局は実施体制を「地域体制」へ移行することで充実を図るとした。各会員からは、インフラアカデミー実施、キャリア教育を小中学生へ拡大、体験学習会アンケート結果、小学生・親子現場見学会、普通科高校生へ説明会実施など情報提供があり、今年度も会員連携して取り組むことを確認した。

【議事】④関係機関におけるDX・i-Construction取組状況 等

各会員団体からの活動状況・取組み状況の報告

－ 有識者からのコメント －

- ・小中学生まで広がるキャリア教育は評価できる。親・家族等への拡大する体験学習会は親子で共通の思い出を作り、職業選択動機付けに期待。
- ・土木はスケールの大きさ、最大の魅力。土木の魅力をリアルに実感できる体験型と、インフルエンサーとの連携・SNS等と両輪で取り組むとよい。
- ・ICT施工の実施実績が着実に伸びている。普及してきたがゆえ、新たな課題、企業間の差が気になる。未対応・対応できない企業の社員技術者、どのように教育して行くのかと、ICT機器の導入の補助充実、今後期待される。
- ・ICT施工の前提として、構造物の品質が確保、その視点も忘れず取り組んでほしい。
- ・BIM/CIM、なかなか普及が進んでいない。国交省も今年度から本格的に導入、発注者側の方での意識を高めるところが、ポイントになる。